# 光電子移動酸素反応を活用するスピロインダン-1,2-ジオキソラン類の合成と 抗マラリア活性

# Applications of triphenylpyrylium salt-sensitized electron transfer photo-oxygenation reactions to the synthesis of antimalarial spiroindan-1,2-dioxolanes

鎌田正喜<sup>a</sup>·\*·中澤裕子<sup>a</sup>·佐藤慎吾<sup>a</sup>·滝澤麻以子<sup>a</sup>·高坂雄貴<sup>a</sup>·早川 潤<sup>a</sup>·金 惠淑<sup>b</sup> Masaki KAMATA<sup>a</sup>\*·Hiroko NAKAZAWA<sup>a</sup>·Shingo SATOH<sup>a</sup>·Maiko TAKIZAWA<sup>a</sup>·Yuuki KOHSAKA<sup>a</sup>·Jun HAYAKAWA<sup>a</sup>·Hye-Sook KIM<sup>b</sup>

**Abstract:** Triphenylpyrylium tetrafluoroborate-sensitized electron transfer photo-oxygenation was found to be an effective method for the transformation of spiroindan-substituted cyclopropanes to the corresponding 1,2-dioxolanes. *In vitro* evaluation of the 1,2-dioxolanes showed high antimalarial activity.

**Key words:** single-electron transfer, photo-oxygenation, photo-electron transfer reaction, triphenylpyrylium tetrafluoroborate, cyclopropanes, 1,2-dioxolanes, antimalarials, antimalarial peroxides.

# 1. はじめに

我々は、"可視光吸収型増感剤を用いた新規光化学反応の開発およびその実用化"を目標にして、ピリリウム塩を増感剤とする光電子移動反応の研究を行ってきた。新規光化学反応の開発では、合成化学的に有用な種々の反応開発に成功している[1]。また、実用面からは、光電子移動酸素化反応を積極的に活用することによって薬理活性を有する種々の双環式環状過酸化物 1-3 の合成を行ってきた(Scheme 1)[2]。環状過酸化物 1-3 は、前駆体ジエンからそれぞれ1段階という短経路で合成することが可能であり、同様な双環式環状過酸化物構造を有するアルテミシニンに匹敵する高い抗マラリア活性と選択毒性比を持つものがあることを明らかにした(Table 1)。さらに、我々は、単純な骨格構造で合成の容易な1,2-ジオキソラン7-9や1,2-ジオキサン10が高い抗マラリア活性を持つことも発見している(Scheme 2-3, Table 1)。ジオキソラン7-9の抗マラリア活性は、7-9がへム(Fe(II))との反応で0-0結合が開裂し、シクロアルキルラジカル種(遊離型)を発生することに起因している[3a]。一方、ジオキサン10の抗マラリア活性は、へム(Fe(II))との反応で0-0結合が開裂し、引きつづき側鎖のスピロ5員環が開裂してアルキルラジカル種を発生するためと考えている[3b]。

本研究では、光電子移動酸素化反応の活用と抗マラリア活性を持つ新規な単環式 1,2-ジオキソラン類の開発を念頭において、スピロインダンを側鎖に持つ 1,2-ジオキソラン 11 を合成するとともに、その抗マラリア活性および細胞毒性について調査することにした(Scheme 4)。

<sup>2021.10.25</sup> 受理

a 新潟大学教育学部化学教室: Department of Chemistry, Faculty of Education, Niigata University, Niigata 950-2102, Japan.

<sup>&</sup>lt;sup>b</sup> 岡山大学大学院薬学研究科: Faculty of Pharmaceutical Sciences, Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University, Okayama, 700-8530, Japan.







compound	EC <sub>50</sub> (nM)			
	P. falciparum <sup>a</sup>	FM3A <sup>b</sup>	Selectivity	Keterence
1a	560	18000 (61%) <sup>d</sup>	>32	[2a]
1b	1000	32000 (60%) <sup>d</sup>	>32	[2a]
1c	500	1700	3.4	[2a]
1d	1200	18000 (88%) <sup>d</sup>	>15	[2a]
2a	250	15000	60	[2b]
<b>2b</b>	90	27000 (59%) <sup>d</sup>	>300	[2b]
2c	160	16000 (59%) <sup>d</sup>	>100	[2b]
2d	160	16000 (83%) <sup>d</sup>	>100	[2b]
<b>3</b> a	170	3000	18	[2d]
<b>3</b> b	130	1000	8	[2d]
3c	80	19000 (66%) <sup>d</sup>	>238	[2d]
3d	110	10000	91	[2d]
Artemisinin	7.8	10000	1280	[2a, 2b]

 Table 1. In vitro antimalarial activity of various cyclic peroxides 1-3 against P. falciparum (FCR-3 strain) and cytotoxicity against FM3A cells

<sup>a</sup>Chloroquine-sensitive (FCR-strain). <sup>b</sup>Mouse mammary tumor FM3A cells in culture as a control for mammalian cell cytotoxicity. <sup>c</sup>Selectivity =  $(EC_{50} \text{ value for FM3A})/(EC_{50} \text{ value for } P. falciparum)$ . <sup>d</sup>Growth percent at the concentration indicated.

1	EC <sub>50</sub> (	nM)	Salastivity
compound	P. falciparum <sup>a</sup>	FM3A <sup>b</sup>	- Selectivity
7-syn	540	3800	7
7-anti	190	4800	25
8- <i>syn</i>	820	4600	6
8-anti	680	7000	10
9- <i>syn</i>	620	2000	3
9-anti	670	54000	81
10a- <i>syn</i>	51	3000	59
10a- <i>anti</i>	80	3100	39
10b-syn	246	1800	7
10b-anti	48	1000	21
10c- <i>syn</i>	280	1400	5
10c-anti	205	1000	1

 Table 2. In vitro antimalarial activity of various cyclic peroxides 7-10 against P. falciparum (FCR-3 strain) and cytotoxicity against FM3A cells

<sup>a</sup>Chloroquine-sensitive (FCR-strain). <sup>b</sup>Mouse mammary tumor FM3A cells in culture as a control for mammalian cell cytotoxicity. <sup>c</sup>Selectivity =  $(EC_{50} \text{ value for FM3A})/(EC_{50} \text{ value for } P. falciparum)$ .



**a**: X = H, **b**: X = F, **c**: X = Cl

# 2. 本論

先述したように3,6-ジスピロインダン-1,2-ジオキサン10が抗マラリア活性を示す理由は、ヘム(Fe(II)) との反応で10の0-0結合が一電子還元的に開裂して1-オキシルラジカル10-Iが生成し、引き続き側鎖のス ピロ5員環が開裂してアルキルラジカル種10-II を発生するためと推定している (Scheme 5)。本研究では, 5 員環状の 1,2-ジオキソラン 11 に対してもスピロインダン側鎖を導入することにより、同様なアルキルラ ジカル種 11-II が発生して高い抗マラリア活性を示すと考えた(Scheme 5)。もう1つの目的の光電子移動 酸素化反応の活用という側面では、1,2-ジオキソラン11の合成はシクロプロパン12を前駆体にして光電子 移動酸素化反応を実施することにより、1段階で単環式環状過酸化物の1,2-ジオキソラン11を合成するこ とができると考えた(Scheme 4)。シクロプロパンの1位にアセチル基とメチル基を導入する目的は、光電子 移動反応で生成するシクロプロパンラジカルカチオンが、C1-C2 で開裂した際に生じる C1 ラジカルをアセチ ル基(電子吸引効果)とメチル基(電子供与効果)の capto-dative 効果により準安定化させるとともに、C2 に牛成するカチオン種をスピロインダンのアリール基(非局在化効果)とアルキル基(電子供与効果)によ って準安定化させるためである。これによりシクロプロパンラジカルカチオンの C1-C2 結合開裂を促進して 三重項酸素と反応させることにより、目的とする 1.2-ジオキソラン 11 が効率よく合成できると考えた。一 方、1,2-ジオキソラン11にスピロインダン側鎖を導入する目的は、ヘム鉄(Fe(II))と11の反応で、Fe(II) が立体障害の少ない 02 側に配位することによって選択的に 1-オキシルラジカル 11-I が牛成し、それがカル ボニル基を形成して1級アルキルラジカル種 11-II となり, 抗マラリア活性を発現するものと期待した (Scheme 5 $)_{\circ}$ 



**2-1.** 1-アセチル-1-メチル-スピロ[2,1'-5'-(置換インダン)]シクロプロパン **12** の合成

市販の1-インダノン誘導体をヒドラジンと反応させると1-インダノンヒドラゾン15が得られた。これを ジエチルエーテル中で酸化銀と反応させてジアゾメタン16を得た。ジアゾメタン16のエーテル溶液を窒素 飽和下で 3-メチル-3-ブテン-2-オン 17 と 1,3-双極子付加反応させることにより 5 員環状ジアゾール 18 が 生成したが、これを熱分解することにより目的とするシクロプロパン 12 が得られた。カラムクロマトグラフ ィーによる分離精製で得られたシクロプロパン 12 (*syn と anti*の混合物)の収率を Table 3 に示した。シ クロプロパン 12c の収率が 18%程度であるため、同様な合成実験を複数回検討して収率を改善させる必要が ある。他のシクロプロパン 12a-b では収率が 41-64%であり、中程度の収率で目的とするシクロプロパン 12 が得られた。12 は *syn* 体と *anti* 体の混合物として得られたが、カラムクロマトグラフィーや薄層クロマト グラフィーによる両者の分離が難しいので、混合物のままで次段階の光電子移動酸素化反応に使用すること にした。



Table 3. Synthesis of 1-acetyl-1-methylspiro[2,1'-(5'-X-substituted-indan)]cyclopropanes 12a-c

ate	Reaction time		
<b>17</b> / mmol	(hrs) yield of $12 (\%)^a (syn)$		
8.0	4	41 (39 : 61)	
4.5	14	64 (45 : 55)	
3.8	24	18 (89 : 11)	
	17/ mmol 8.0 4.5 3.8	Image: Alternal state         Reaction time (hrs)           8.0         4           4.5         14           3.8         24	

<sup>a</sup>Isolated yield by SiO<sub>2</sub> column chromathography.

01443

#### 2-2. 1,2-ジオキソラン 11a-c の合成と光電子移動酸素化の反応機構

光電子移動反応を経由する酸素化反応を実施するにあたって、上記 2-1 で合成したシクロプロパン 12a-c の酸化電位を測定したところ、1.1-1.2 V (vs. SCE in CH<sub>3</sub>CN) と極めて低い酸化電位であった。トリフェ ニルピリリウムテトラフルオロボレート (TPPBF4) の光励起状態での一電子酸化力が約 2.5 V (vs. SCE in CH<sub>3</sub>CN) であることを考慮すると、シクロプロパン 12a-c と光励起状態の TPPBF4 との一電子移動反応が容易 に進行することが明らかになった。次に、シクロプロパン 12a-c とピリリウム塩 (TPPBF4) との光酸素化反 応について、光照射時間や溶媒などの条件検討を行ったところ、すべてのシクロプロパン 12a-c で光照射時 間は 3-5 分間、溶媒は乾燥アセトニトリルを使用するのが最適条件であることがわかった。1,2-ジオキソラ ン 11a-c が最も収率良く生成する条件と単離収率を Table 4 に示した。シクロプロパン 12a-c から目的とす る 1,2-ジオキソラン 11a-c が 65-95%の良好な収率で生成し、光照射時間も 3-5 分間という短時間で済むこ とが確認できた。1,2-ジオキソラン 11 の syn 体と anti 体の生成比は、11a(H体)では 19:81、11b(F 体)では 17:83、11c(C1 体)では 23:77 であった。アセチル基がメチル基に比べてやや嵩高いため、いずれの誘導体の 場合も anti 体の生成が優先的であった。1,2-ジオキソラン 11a-c の syn 体と anti 体は、薄層クロマトグラ フィーやカラムクロマトグラフィーで容易に分離可能であった。



			Yield of $11 / \%^{\text{b}}$	
Run <sup>a</sup>	Substrate	Irradiation time / min	(11-syn : 11-anti)	
1	<b>12a</b> ( <i>syn</i> : <i>anti</i> = 39 : 61)	5	65 (19:81)	
2	<b>12b</b> ( <i>syn</i> : <i>anti</i> = 45 : 55)	5	80 (17 : 83)	
3	12c-syn	3	95 (23 : 77)	

<sup>a</sup>**12** = 0.20 mmol, 2,4,6-triphenylpyrylium tetrafluoroborate (TPPBF<sub>4</sub>) = 0.04 mmol, biphenyl = 0.06 mmol, dry CH<sub>3</sub>CN = 20 mL; 20°C; Irradiated by a 2 kW Xe lamp,  $\lambda > 360$  nm; 1,4-Diaza-bicyclo[2.2.2]octane (0.10 mmol) was added after the reaction. <sup>b</sup>Isolated yield by silica gel TLC.

この光電子移動酸素化反応の機構を Scheme 6 に示した。光励起されたピリリウム塩(TPPBF4) がシクロプロパン12 を一電子酸化してシクロプロパンラジカルカチオン(12)\*を生成する。このラジカルカチオン中間体(12)\*は三重項酸素と反応してペルオキシラジカルカチオンになった後、ピリリウム塩の還元体(TPPBF4<sup>--</sup>)によって一電子還元されて 1,2-ジオキソラン 11 へと閉環する。この時、シクロプロパンラジカルカチオン への三重項酸素(ビラジカル)の付加と一電子還元による分子内閉環が段階的に進行するため、1,2-ジオキ ソラン 11 は *syn* 体と *anti* 体が同時に生成してくる。1,2-ジオキソラン 11b-c の収率が極めて高い理由は、ラジカルカチオン中間体(12)\*において炭素ラジカルが1位のメチル基とアセチル基の capto-dative 効果により準安定化され、かつ、2 位のカルボカチオンがインダン側鎖のアリール基(非局在化効果)とアルキル 基(電子供与効果)により準安定化されるため、三重項酸素との反応が効果的に進行するものと考えられる。

Scheme 6



2-3. 1,2-ジオキソラン11の抗マラリア活性と細胞毒性

このようにして合成した 1,2-ジオキソラン 11a-c について抗マラリア活性と細胞毒性を測定したところ, Table 5 のような結果が得られた。1,2-ジオキソラン 11a-c の syn 体および anti 体のすべてで 75-500 nM と いう比較的高い抗マラリア活性が見られ,選択毒性比も 13-81 でかなり良好な数値を示した。特に 11a(H), 11b(F)の syn 体および anti 体は高い抗マラリア活性 (75-247 nM) と選択毒性比(28-81)を持っており,抗マ ラリア活性な単環式環状過酸化物を設計する際のリード化合物になり得ることがわかった。1,2-ジオキソラ ン 11a-c は、当初期待したとおり,スピロインダンを側鎖に持つ 1,2-ジオキサン 10 とかなり類似した抗マ ラリア活性と選択毒性比を持つことが明らかになった。

compound	$EC_{50}$ (nM)		Salactivity
	P. falciparum <sup>a</sup>	FM3A <sup>b</sup>	Selectivity
11a-syn	75	2100	28
11a-anti	110	3700	34
11b-syn	144	9000	63
11b-anti	247	2000	81
11c- <i>syn</i>	500	6700	13
11c-anti	300	4900	16

**Table 5**. *In vitro* antimalarial activity of 3-acetyl-3-methylspiro[5,1'-(X-substituted-indan)]-1,2-dioxolanes **11a-c** against *P. falciparum* (FCR-3 strain) and cytotoxicity against FM3A cells

<sup>a</sup>Chloroquine-sensitive (FCR-strain). <sup>b</sup>Mouse mammary tumor FM3A cells in culture as a control for mammalian cell cytotoxicity. <sup>c</sup>Selectivity = (EC<sub>50</sub> value for FM3A)/(EC<sub>50</sub> value for *P. falciparum*).

#### **2-4.** 抗マラリア活性中間体の検証: 1, 2-ジオキソラン **11a**-antiと Fe(II)Br2の反応

1,2-ジオキソラン11から発生する抗マラリア活性中間体を探索する目的で、Fe(II)Br<sub>2</sub>(ヘムモデル)と 1,2-ジオキソラン11a-antiの反応を検討した(Scheme 7)。11a-anti(0.10 mmol)とFeBr<sub>2</sub>(0.10 mmol)を 乾燥 THF (5 mL)中,室温で4時間反応させたところ、アルドール21a(26%)、共役エノン22a(34%)、非共役 エノン23a(24%)が得られた(合計84%)。これはScheme 7に示したように、Fe(II)が11a-antiの0-0結合 を一電子還元して2-オキシルラジカル中間体19を選択的に生成し、最終的にアセチルラジカルと21a-23a の分解生成物を与える機構で説明できる。Fe(II)が0(2)に配位して生成する1-オキシルラジカルや間体か らの分解生成物がまったく得られないことから、Fe(II)は嵩高いように見えるインダン側の酸素原子0(1)に 配位して0-0結合を一電子還元し、2-オキシルラジカル中間体19を生成していることは明白である。事前 に予想していた1-オキシルラジカル中間体11-Iの生成およびそこからの分解生成物はほぼないことが判明 した。11の1,2-ジオキソラン環は5位のスピロインダン側鎖とはほぼ直交しているため、Fe(II)が0(1)側 に配位しやすいものと考えられる。このような生成物分析の結果から、1,2-ジオキソラン11の抗マラリア活 性は、分解生成物 21a-23aの片割れのアセチルラジカル(COMe)であることが推定できた。

最後に, アセチルラジカル (COMe) が抗マラリア活性種であることを確認するために, 3-アセチル-3-メ チルスピロ[5,9'-フルオレン]-1,2-ジオキソラン 24 を 11 と同様な方法で合成し (Scheme 8), その抗マラ リア活性および細胞毒性を調査した。その結果, 24 は抗マラリア活性が 34 nM で, 11a-c よりも高い抗マラ リア活性をもつことが判明した (Table 6)。24 はフルオレン側の酸素原子 0(1)にヘム鉄 (Fe(II)) がより配 位しやすくなるため, 結果的にアセチルラジカル (COMe) の生成に有利に働くものと考えられる。



Scheme 8



 Table 6. In vitro antimalarial activity of 3-acetyl-3-methylspiro[5,9'-fluorene]-1,2-dioxolane 24

 against P. falciparum (FCR-3 strain) and cytotoxicity against FM3A cells



<sup>a</sup>Chloroquine-sensitive (FCR-strain). <sup>b</sup>Mouse mammary tumor FM3A cells in culture as a control for mammalian cell cytotoxicity. <sup>c</sup>Selectivity =  $(EC_{50} \text{ value for FM3A})/(EC_{50} \text{ value for } P. falciparum)$ .

#### 3. 実験の部

3-1 1-インダノンヒドラゾン 15a-c の合成

(1) 1-インダノンヒドラゾン 15a の合成

攪拌子(全長 2.5 cm, 直径 0.7 cm)を入れた 100 mL ナス型フラスコに, 1-インダノン(4.130 g, 30.0 mmol, 純度 96%), ヒドラジン一水和物(7.650 g, 150 mmol, 和光純薬, 純度 98%), ジエチレングリコール(50 mL)を入れ, 150℃の油浴で 60 分間加熱攪拌した。反応終了後,室温まで冷却した反応溶液を 500 mL 分液ロートに移し, 水(100 mL), ジクロロメタン(100 mL)を加えてジクロロメタン相を分取し, 水相をさらにジクロロメタン(100 mL x 2 回)で抽出した。ジクロロメタン相をまとめ, 水(100 mL x 2 回), 飽和食塩水(100 mL x 1 回)で洗浄した後, 無水硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を留去し,真空乾燥して 1-インダノンヒドラゾン 15a の黄色針状結晶(4.078 g, 収率 94%, 融点 86-89℃)を得た。(2) 5-フルオロインダノンヒドラゾン 15b の合成

攪拌子(全長 2.5 cm, 直径 0.7 cm)を入れた 100 mL ナス型フラスコに、5-フルオロ-1-インダノン(4.692 g, 30.0 mmol, 純度 96%), ヒドラジン一水和物(7.650 g, 150 mmol, 和光純薬, 純度 98%), ジエチレング リコール(50 mL)を入れ、150℃の油浴で 60 分間加熱攪拌した。反応終了後、室温まで冷却した反応溶液を 500 mL 分液ロートに移し,水(100 mL),ジクロロメタン(100 mL)を加えてジクロロメタン相を分取し, 水相をさらにジクロロメタン(100 mL x 2 回)で抽出した。ジクロロメタン相をまとめ,水(100 mL x 2 回)、飽和食塩水(100 mL x 1 回)で洗浄した後、無水硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を留去し、真空乾燥して 5-フルオロ 1-インダノンヒドラゾン 15b の無色結晶(4.8763 g, 収率 99%, 融点 84℃)を得た。(3) 5-クロロインダノンヒドラゾン 15c の合成

攪拌子(全長 2.5 cm, 直径 0.7 cm)を入れた 100 mL ナス型フラスコに, 5-クロロ-1-インダノン(4.279 g, 25.0 mmol, 東京化成, 純度 97%), ヒドラジン一水和物(6.385 g, 125 mmol, 和光純薬, 純度 98%), ジエチレングリコール(50 mL)を入れ, 150℃の油浴で 60 分間加熱攪拌した。反応終了後,室温まで冷却した反応溶液を 500 mL 分液ロートに移し,水(100 mL),ジクロロメタン(100 mL)を加えてジクロロメタン相を分取し,水相をさらにジクロロメタン(100 mL x 2 回)で抽出した。ジクロロメタン相をまとめ,水(100 mL x 2 回),飽和食塩水(100 mL x 1 回)で洗浄した後,無水硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を留去し,真空乾燥して 5-クロロ 1-インダノンヒドラゾン 15c の黄色結晶(4.5156 g, 収率100%,融点 113-115℃)を得た。

#### 3-2 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,1'-(5'-置換インダン)]シクロプロパン12の合成

(1) 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,1'-インダン]シクロプロパン 12a (syn および anti) の合成

1-インダノンヒドラゾン 15a (1.4620 g, 10.0 mmol) と無水硫酸ナトリウム (1.0 g), ジエチルエーテル (50 mL), 攪拌子(全長 2.0 cm, 直径 0.6 cm)を 100 mL ナス型フラスコに入れ攪拌した。そこへ酸化銀 (2.5749 g, 11.0 mmol, 和光純薬, 特級 99%) を徐々に加えた。反応を促進するためにヒドラジン一水和物 を2滴(10 mg程度)加えた。反応が開始すると、反応溶液は赤色に呈色して1-インダンジアゾメタン16a が生成した。その際, 黒色の酸化銀は灰色に変化した。3-メチル-3-ブテン-2-オン17(708.5 mg, 8.0 mmol: ジアゾメタン 16a の 80% モル量) を加え,5分間ほど攪拌した後,ひだ付き濾紙を用いて反応溶液を濾過し, 生成した銀や硫酸ナトリウムを除去し、これらをジエチルエーテル(30 mL)で洗浄した。得られたエーテル 溶液に窒素ガスを封入して密栓し、室温、暗所下(アルミホイルでフラスコを覆う)でジアゾメタン16aの 紫色が消えるまで4時間攪拌した。反応の進行に伴い反応溶液は赤色から徐々に黄色に変化した。その後、 エーテルを留去し、真空乾燥を行い、ジアゾール 18aの黄色油状物を得た。次に、このジアゾール 18c を無 溶媒のまま 100℃で 10 分間加熱攪拌して目的の 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,1'-インダン]シクロプロパ ン 12a の粗生成物(黄色油状物, 1.8733 g)を得た。この粗生成物をカラムクロマトグラフィー(全長 50 cm, 直径 3.7 cm のカラム管に 30 cm の高さまでシリカゲル(ワコーゲル C-200)を充填したもの)を用いて 分離精製した。ジクロロメタン:ヘキサン = 2:1の混合溶媒でFr1-20(2000 mL)まで溶出した。その結 果, Fr7-20 にシクロプロパン 12a-syn と 12a-anti の混合物(657.0 mg, 41%, syn : anti = 39 : 61)を得 た。

<12a-synの物理データ: C14H16O[M.W.200.2762], colorless oil>

1H-NMR (270 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 0.90 (d, 1H, J = 5.4 Hz), 1.35 (s, 3H, Me), 1.83 (s, 3H, COMe), 1.80-1.92 (m, 1H), 2.07 (d, 1H, J = 5.4 Hz), 2.12-2.36 (m, 1H), 2.90-3.05 (m, 2H), 6.70-6.76 (m, 1H), 7.02-7.32 (m, 3H).

<12a-antiの物理データ: C<sub>14</sub>H<sub>16</sub>O[M.W.200.2762], colorless oil>

1H-NMR (270 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.18 (d, 1H, J = 5.4 Hz), 1.56 (s, 3H, Me), 1.99 (d, 1H, J = 5.4 Hz), 2.22 (s, 3H, COMe), 2.12-2.36 (m, 2H), 2.76-2.86 (m, 2H), 6.86-6.93 (m, 1H), 7.02-7.32 (m, 3H).

(2) 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,1'-(5'-フルオロインダン)]シクロプロパン 12b (*syn*および *anti*)の合成

5-フルオロ-1-インダノンヒドラゾン **15b**(820.9 mg, 3.0 mmol)と無水硫酸ナトリウム(1.0 g)、ジエチ ルエーテル(45 mL), 攪拌子(全長 2.0 cm, 直径 0.6 cm)を100 mL ナス型フラスコに入れ攪拌した。そこ へ酸化銀(1.2874 g, 5.5 mmol, 和光純薬, 特級 99%)を徐々に加えた。反応を促進するためにヒドラジンー 水和物を2滴(10 mg 程度)加えた。反応が開始すると、反応溶液は赤色に呈色して1-インダンジアゾメタ ン 16b が生成した。その際, 黒色の酸化銀は灰色に変化した。3-メチル-3-ブテン-2-オン 17 (398.5 mg, 4.5 mmol:ジアゾメタン 16b の 136% モル量)を加え,5分間ほど攪拌した後,ひだ付き濾紙を用いて反応溶液を 濾過し,生成した銀や硫酸ナトリウムを除去し,これらをジエチルエーテル(30 mL)で洗浄した。得られた エーテル溶液に窒素ガスを封入して密栓し、室温、暗所下(アルミホイルでフラスコを覆う)でジアゾメタ ン16bの紫色が消えるまで14時間攪拌した。反応の進行に伴い反応溶液は赤色から徐々に黄色に変化した。 その後、エーテルを留去し、真空乾燥を行い、ジアゾール 18b の黄色油状物を得た。次に、このジアゾール 18b を無溶媒のまま 100℃で 10 分間加熱攪拌して目的の 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,1'-(5'-フルオロ インダン)]シクロプロパン 12b の粗生成物(黄色油状物)を得た。この粗生成物をカラムクロマトグラフィ - (全長 50 cm, 直径 3.7 cm のカラム管に 30 cm の高さまでシリカゲル (ワコーゲル C-200) を充填したも の)を用いて分離精製した。ジクロロメタン:ヘキサン = 2:1の混合溶媒で Fr1-14 (1400 mL) まで溶出 した。その結果, Fr7-14 にシクロプロパン 12b-syn と 12b-anti の混合物(419.1 mg, 64%, syn: anti = 45:5)を得た。

(3) 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,1'-(5'-クロロインダン)]シクロプロパン 12c (*syn* および *anti*)の 合成

5-クロロ-1-インダノンヒドラゾン 15c (867.0 mg, 4.8 mmol) と無水硫酸ナトリウム (1.0 g), ジエチル エーテル (50 mL), 攪拌子 (全長 2.0 cm, 直径 0.6 cm)を 100 mL ナス型フラスコに入れ攪拌した。そこへ 酸化銀(1.2874 g, 5.5 mmol,和光純薬,特級 99%)を徐々に加えた。反応を促進するためにヒドラジン一水 和物を2滴(10 mg 程度)加えた。反応が開始すると、反応溶液は赤紫色に呈色して 5-クロロ-1-インダンジ アゾメタン 16c が生成した。その際, 黒色の酸化銀は灰色に変化した。3-メチル-3-ブテン-2-オン 17 (319.6 mg, 3.8 mmol:ジアゾメタン 16c の 80% モル量)を加え,5分間ほど攪拌した後,ひだ付き濾紙を用いて反 応溶液を濾過し、生成した銀や硫酸ナトリウムを除去し、これらをジエチルエーテル(30 mL)で洗浄した。 得られたエーテル溶液に窒素ガスを封入して密栓し,室温,暗所下(アルミホイルでフラスコを覆う)でジ アゾメタン 16c の紫色が消えるまで 24 時間攪拌した。反応の進行に伴い反応溶液は赤紫色から徐々に黄色 に変化した。その後、エーテルを留去し、真空乾燥を行い、ジアゾール18cの黄色油状物(958.4 mg)を得 た。次に,このジアゾール 18c を無溶媒のまま 100℃で 10 分間加熱攪拌して目的の 1-アセチル-1-メチルス ピロ[2,1'-(5'-クロロインダン)]シクロプロパン 12c の粗生成物 (黄色油状物,920.9 mg) を得た。この粗 生成物をカラムクロマトグラフィー(全長 50 cm, 直径 3.7 cm のカラム管に 30 cm の高さまでシリカゲル (ワコーゲル C-200)を充填したもの)を用いて分離精製した。ジクロロメタン: ヘキサン = 1:2の混 合溶媒で Fr1-22(2200 mL)まで溶出した。その結果, Fr10-22 にシクロプロパン **12c-***syn* **と 12c-***anti* **の混** 合物(158.8 mg, 18%, *syn*: *anti* = 89: 11)を得た。シクロプロパン **12c-***syn* と **12c-***anti* の混合物の一 部はスペクトル測定用に薄層クロマトグラフィー(ジクロロメタン:ヘキサン = 3:1の混合溶媒)で分離 した。

3-3 3-アセチル-3-メチルスピロ[5,1'-(5'-置換インダン)]-1,2-ジオキソラン11の合成

 3-アセチル-3-メチルスピロ[5,1'-インダン]-1,2-ジオキソラン 11a (syn および anti)の光電子移動 酸素化反応による合成

攪拌子(全長1.5 cm, 直径0.5 cm)を入れたパイレックス製の試験管(全長19 cm, 直径3.0 cm)に12a-(syn + anti mixture) (40.1 mg, 0.20 mmol) と 2,4,6-トリフェニルピリリウムテトラフルオロボレート (TPPBF4:15.8 mg, 0.04 mmol), ビフェニル (92.5 mg, 0.60 mmol) を量りとり, 乾燥アセトニトリル (20 mL)を加えた。超音波洗浄機で5分間脱気した後、19-21℃の光反応用水槽中にセットし、反応溶液に酸素を 吹き込みながら5分間攪拌した。その後,酸素を通気しながら2kWキセノンランプで光照射(東芝ガラスフ ィルター(L-39)、λ>360 nm)した。反応の進行状況を薄層クロマトグラフィー(チェック用 TLC、メルク、 シリカゲル 60F254、展開溶媒:ジクロロメタン)で追跡した結果、5 分間の光照射でシクロプロパン 12aの スポットは完全に消失した。その後, 1,4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン (DABCO:23 mg, 0.20 mmol, 東京 化成 KK, 純度 98%)を加えて (ピリリウム塩が光反応で一部だけ分解して生成する HBF4を中和するため), 反応溶液を 50 mL のナス型フラスコに移し、溶媒を留去して粗生成物を得た。ジクロロメタン : ヘキサン = 3 : 1 を展開溶媒に用いて, 20 cm x 20 cm のシリカゲル薄層クロマトグラフィー (メルク 60GF254 のシ リカゲルを使用して作成)4枚で粗生成物を分離精製したところ,1,2-ジオキソラン11a-syn体と11a-anti 体の混合物 (Rf = 0.72, 30.2 mg) を得た (syn: anti = 19: 81, 収率 65%)。1,2-ジオキソラン 11a-syn 体と 11a-anti 体の分離は、シリカゲル薄層クロマトグラフィー(メルク 60GF254 のシリカゲルを使用して 作成)のRf = 0.72のバンドを上中下の3つに分画して、それぞれを薄層クロマトグラフィーで複数回の分 画を繰り返すことによって syn 体と anti 体に分離した。

(2) 3-アセチル-3-メチルスピロ[5,1'-(5'-フルオロインダン)]-1,2-ジオキソラン11b(*syn*および *anti*)の光電子移動酸素化反応による合成(典型例を示した)

攪拌子(全長 1.5 cm, 直径 0.5 cm)を入れたパイレックス製の試験管(全長 19 cm, 直径 3.0 cm)に 12b-(*syn + anti* mixture)(43.7 mg, 0.20 mmol)と2,4,6-トリフェニルピリリウムテトラフルオロボレート (TPPBF4:15.8 mg, 0.04 mmol),ビフェニル(92.5 mg. 0.60 mmol)を量りとり,乾燥アセトニトリル(20 mL)を加えた。超音波洗浄機で5分間脱気した後、19-21℃の光反応用水槽中にセットし、反応溶液に酸素を 吹き込みながら5分間攪拌した。その後、酸素を通気しながら2 kWキセノンランプで光照射(東芝ガラスフ ィルター(L-39)、 $\lambda$  >360 nm)した。反応の進行状況を薄層クロマトグラフィー(チェック用 TLC、メルク, シリカゲル 60F254、展開溶媒:ジクロロメタン)で追跡した結果、5分間の光照射でシクロプロペン12cの スポットは完全に消失した。その後、1,4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン(DABCO:23 mg, 0.20 mmol,東京 化成 KK、純度 98%)を加えて(ピリリウム塩が光反応で一部だけ分解して生成する HBF4を中和するため), 反応溶液を50 mLのナス型フラスコに移し、溶媒を留去して粗生成物を得た。ジクロロメタン: ヘキサン = 1:1を展開溶媒に用いて、20 cm x 20 cm のシリカゲル薄層クロマトグラフィー(メルク 60GF254 のシ リカゲルを使用して作成)4枚で粗生成物を分離精製したところ、1,2-ジオキソラン11b-*syn*体(Rf = 0.57, 6.8 mg)と11b-*anti*体(Rf = 0.45, 33.2 mg)を得た(*syn*: *anti* = 17:83, 収率 80%)。 (3) 3-アセチル-3-メチルスピロ[5,1'-(5'-クロロインダン)]-1,2-ジオキソラン 11c (*syn* および *anti*)

の光電子移動酸素化反応による合成

攪拌子(全長 1.5 cm, 直径 0.5 cm)を入れたパイレックス製の試験管(全長 19 cm, 直径 3.0 cm)に12c *syn*(46.9 mg, 0.20 mmol)と2,4,6-トリフェニルピリリウムテトラフルオロボレート(TPPBF4:15.8 mg, 0.04 mmol),ビフェニル(92.5 mg, 0.60 mmol)を量りとり,乾燥アセトニトリル(20 mL)を加えた。超音 波洗浄機で5分間脱気した後,19-21℃の光反応用水槽中にセットし,反応溶液に酸素を吹き込みながら5分 間攪拌した。その後,酸素を通気しながら2 kWキセノンランプで光照射(東芝ガラスフィルター(L-39), $\lambda$ >360 nm)した。反応の進行状況を薄層クロマトグラフィー(チェック用 TLC,メルク,シリカゲル 60F254, 展開溶媒:ジクロロメタン)で追跡した結果,3分間の光照射でシクロプロパン12c-*syn*のスポットは完全 に消失した。その後,1,4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン(DABC0:23 mg, 0.20 mmol,東京化成 KK,純度 98%)を加えて(ピリリウム塩が光反応で一部だけ分解して生成する HBF4を中和するため),反応溶液を 50 mLのナス型フラスコに移し,溶媒を留去して粗生成物を得た。エーテル: ヘキサン = 2:3を展開溶媒に 用いて,20 cm x 20 cm のシリカゲル薄層クロマトグラフィー(メルク 60GF254 のシリカゲルを使用して作 成) 5 枚で粗生成物を分離精製したところ, 1,2-ジオキソラン 11c-*syn* 体と 11c-*anti* 体 (Rf = 0.71-0.80, *syn*: *anti* = 23:77, 収率 95%) を得た。1,2-ジオキソラン 11c-*syn* 体と 11c-*anti* 体の分離は,シリカゲ ル薄層クロマトグラフィー (メルク 60GF254 のシリカゲルを使用して作成) の Rf = 0.71-0.80 のバンドを 上中下の 3 つに分画して,それぞれを薄層クロマトグラフィーで複数回の分画を繰り返すことによって *syn* 体と *anti* 体に分離した。以下に 1,2-ジオキソラン 11a-c の物理データを示した。

<11a-synの物理データ: C14H16O3 [M.W.232.2750], colorless oil>

1H-NMR (270 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.54 (s, 3H, Me), 2.10 (dt, 1H, J = 13.5 Hz, 8.1 Hz), 2.39 (s, 3H, COMe), 2.43 (d, 1H, J = 13.0 Hz), 2.72 (ddd, 1H, J = 13.5 Hz, 8.1 Hz, 2.2 Hz), 2.85 (ddd, 1H, J = 16.2 Hz, 8.1 Hz, 2.2 Hz), 3.07 (dt, 1H, J = 16.2 Hz, 8.1 Hz), 3.71 (d, 1H, J = 13.0 Hz), 7.18-7.34 (m, 4H).

13C-NMR (67.5 MHz, CDCl<sub>3</sub>) δ<sub>ppm</sub>: 19.57 (q, 1C), 23.83 (q, 1C), 29.71 (t, 1C), 39.67 (t, 1C), 52.14 (t, 1C), 91.76 (s, 1C), 95.71 (s, 1C), 124.22 (d, 1C), 124.88 (d, 1C), 126.88 (d, 1C), 129.69 (d, 1C), 138.32 (s, 1C), 145.88 (s, 1C), 212.58 (s, 1C).

IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3030, 2930, 2850, 1720, 1607, 1480, 1460.

<11a-antiの物理データ: C<sub>14</sub>H<sub>16</sub>O<sub>3</sub>[M.W.232.2750], colorless prisms, m.p. 63-67 °C>

1H-NMR (270 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.54 (s, 3H, Me), 2.21-2.29 (m, 2H), 2.39 (s, 3H, COMe), 2.64 (d, 1H, J = 13.0 Hz), 2.78-2.91 (m, 1H), 2.93-3.05 (m, 1H), 3.42 (d, 1H, J = 13.0 Hz), 7.45-7.51 (m, 4H).

13C-NMR (67.5 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 19.57 (q, 1C), 23.81 (q, 1C), 29.57 (t, 1C), 36.31 (t, 1C), 53.03 (t, 1C), 91.32 (s, 1C), 94.90 (s, 1C), 123.22 (d, 1C), 124.67 (d, 1C), 126.93 (d, 1C), 128.74 (d, 1C), 143.21 (s, 1C), 144.06 (s, 1C), 211.43 (s, 1C).

IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3075, 2950, 2840, 1716, 1603, 1479, 1460.

<11b-synの物理データ: C14H15FO3[M.W.250.2655], colorless oil>

 $1 \text{H-NMR} (270 \text{ MHz}, \text{CDCl}_3) \ \delta_{\text{ppm}}: 1.48 \ (\text{s}, 3\text{H}, \text{Me}), 2.05 - 2.20 \ (\text{m}, 1\text{H}), 2.38 \ (\text{s}, 3\text{H}, \text{COMe}), 2.40 \ (\text{d}, 1\text{H}, \text{J} = 13.0 \ \text{Hz}), 2.68 - 2.88 \ (\text{m}, 2\text{H}), 2.98 - 3.12 \ (\text{m}, 1\text{H}), 3.69 \ (\text{d}, 1\text{H}, \text{J} = 13.0 \ \text{Hz}), 6.85 - 6.96 \ (\text{m}, 2\text{H}), 7.15 - 7.23 \ (\text{m}, 1\text{H}).$ 

13C-NMR (67.5 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 19.43 (q, 1C), 23.72 (q, 1C), 29.72 (t, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 2.2 Hz), 40.09 (t, 1C), 51.79 (t, 1C), 91.82 (s, 1C), 95.00 (s, 1C), 111.78 (d, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 22.2 Hz), 114.27 (d, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 23.4 Hz), 125.77 (d, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 9.5 Hz), 134.84 (s, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 2.2 Hz), 148.42 (s, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 8.3 Hz), 163.97 (s, 1C, J<sub>C-F(d)</sub> = 246.0 Hz), 212.34 (s, 1C). IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3070, 2940, 2840, 1720, 1603, 1598, 1490.

<11b-antiの物理データ: C<sub>14</sub>H<sub>15</sub>FO<sub>3</sub>[M.W.250.2655], colorless prisms, m.p. 58-60 °C>

1H-NMR (270 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.53 (s, 3H, Me), 2.23-2.32 (m, 2H), 2.38 (s, 3H, COMe), 2.60 (d, 1H, J = 12.7 Hz), 2.83 (dt, 1H, J = 16.5 Hz, 7.6 Hz), 2.96 (dt, 1H, J = 16.5 Hz, 7.6 Hz), 3.43 (d, 1H, J = 12.7 Hz), 6.86-7.01 (m, 2H), 7.37-7.46 (m, 1H).

 $13C-NMR (67.5 \text{ MHz}, \text{CDCl}_3) \delta_{ppm}: 19.42 (q, 1C), 23.63 (q, 1C), 29.49 (t, 1C, J_{C-F(d)} = 2.2 \text{ Hz}), 36.56 (t, 1C), 52.84 (t, 1C), 91.26 (s, 1C), 94.13 (s, 1C), 111.42 (d, 1C, J_{C-F(d)} = 21.7 \text{ Hz}), 114.09 (d, 1C, J_{C-F(d)} = 22.8 \text{ Hz}), 124.55 (d, 1C, J_{C-F(d)} = 8.8 \text{ Hz}), 139.86 (s, 1C, J_{C-F(d)} = 2.8 \text{ Hz}), 145.65 (s, 1C, J_{C-F(d)} = 8.4 \text{ Hz}), 163.26 (s, 1C, J_{C-F(d)} = 246.0 \text{ Hz}), 211.04 (s, 1C). \text{ IR (KBr) cm}^{-1}: 3080, 2930, 1721, 1613, 1597, 1532.$ 

<11c-synの物理データ: C14H15ClO3[M.W.282.7195], colorless oil>

1H-NMR (700 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.48 (s, 3H, Me), 2.08-2.14 (m, 1H), 2.37 (s, 3H, COMe), 2.41 (d, 1H, J = 12.6 Hz), 2.69-2.74 (m, 1H), 2.80-2.86 (m, 1H), 3.01-3.07 (m, 1H), 3.68 (d, 1H, J = 12.6 Hz), 7.14-7.16 (m, 1H), 7.18-7.20 (m, 1H), 7.24-7.25 (m, 1H).

13C-NMR (67.5 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 19.28 (q, 1C), 23.62 (q, 1C), 29.50 (t, 1C), 39.73 (t, 1C), 51.72 (t, 1C), 91.86 (s, 1C), 95.07 (s, 1C), 125.17 (d, 1C), 125.51 (d, 1C), 127.36 (d, 1C), 135.77 (s, 1C), 137.09 (s, 1C), 147.89 (s, 1C), 212.53 (s, 1C).

IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3054, 2984, 2933, 2853, 1719, 1601, 1579, 1475.

<11c-antiの物理データ: C14H15ClO3[M.W.282.7195], colorless oil>

1H-NMR (700 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.52 (s, 3H, Me), 2.20-2.25 (m, 1H), 2.26-2.31 (m, 1H), 2.38 (s, 3H, COMe), 2.57 (d, 1H, J = 12.6 Hz), 2.80-2.86 (m, 1H), 2.91-2.98 (m, 1H), 3.44 (d, 1H, J = 12.6 Hz), 7.20-7.22 (m, 1H), 7.22-7.24 (m, 1H

7.36-7.41 (m, 1H).

13C-NMR (67.5 MHz, CDCl<sub>3</sub>) δ<sub>ppm</sub>: 19.38 (q, 1C), 23.67 (q, 1C), 29.40 (t, 1C), 36.25 (t, 1C), 52.87 (t, 1C), 91.43 (s, 1C), 94.34 (s, 1C), 124.47 (d, 1C), 124.99 (d, 1C), 127.40 (d, 1C), 134.76 (s, 1C), 143.05 (s, 1C), 145.23 (s, 1C), 211.58 (s, 1C).

IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3075, 2981, 2934, 2851, 17120 1600, 1579, 1474.

#### 3-4 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,9'-フルオレン]シクロプロパン28の合成

9-フルオレノンヒドラゾン 25 (1.9423 g, 10.0 mmol) と無水硫酸ナトリウム (1.0 g), ジエチルエーテル (50 mL), 攪拌子 (全長 2.0 cm, 直径 0.6 cm)を100 mL ナス型フラスコに入れ攪拌した。そこへ酸化銀 (2.5749 g, 11.0 mmol, 和光純薬,特級 99%)を徐々に加えた。反応を促進するためにヒドラジン一水和物を2滴(10 mg 程度)加えた。反応が開始すると,反応溶液は赤色に呈色して 9-フルオレンジアゾメタン 26 が生成した。その際,黒色の酸化銀は灰色に変化した。3-メチル-3-ブテン-2-オン 17 (1.7710 g, 20.0 mmol: ジアゾメタン 26 の 200%モル量)を加え、5分間ほど攪拌した後、ひだ付き濾紙を用いて反応溶液を濾過し、生成した銀や硫酸ナトリウムを除去し、これらをジエチルエーテル (30 mL)で洗浄した。得られたエーテル 溶液に窒素ガスを封入して密栓し、室温,暗所下(アルミホイルでフラスコを覆う)でジアゾメタン 26 の紫色が消えるまで 26 日間攪拌した。反応の進行に伴い反応溶液は赤色から徐々に黄色に変化した。その後、エーテルを留去し、真空乾燥を行い、ジアゾール 27 の黄色油状物を得た(ほとんどは脱窒素して 28 になっている)。次に、このジアゾール 27 を無溶媒のまま 100℃で 10 分間加熱攪拌して目的の 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,9' -フルオレン]シクロプロパン 28 の粗生成物(黄色油状物, 2.9078 g)を得た。これをメタノール(15 mL)で再結晶して、目的物の 1-アセチル-1-メチルスピロ[2,9' -フルオレン]シクロプロパン 28 (83%,融点: 105-106℃)を得た。以下にシクロプロパン 28 の物理データを示した。

<28 の物理データ: C<sub>18</sub>H<sub>16</sub>O[M.W.248.3190], colorless prisms, m.p.: 105-106°C>

1H-NMR (200 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.67 (s, 3H, Me), 1.72 (s, 3H, COMe), 1.82 (d, 1H, J = 5.7 Hz), 2.68 (d, 1H, J = 5.7 Hz), 6.98-6.96 (m, 1H), 7.17-7.47 (m, 5H), 7.78-7.92 (m, 2H).

IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3090, 3030, 2970, 2915, 1696, 1606, 1588, 1486.

**3-5** 3-アセチル-3-メチルスピロ[5,9'-フルオレン]-1,2-ジオキソラン 24 の光電子移動酸素化反応による 合成

攪拌子(全長 1.5 cm, 直径 0.5 cm)を入れたパイレックス製の試験管(全長 19 cm, 直径 3.0 cm) にシク ロプロパン **28**(49.7 mg, 0.20 mmol)と 2,4,6-トリフェニルピリリウムテトラフルオロボレート(TPPBF4:15.8 mg, 0.04 mmol), ビフェニル(92.5 mg, 0.60 mmol)を量りとり,乾燥アセトニトリル(20 mL)を加えた。 超音波洗浄機で 5 分間脱気した後, 19-21℃の光反応用水槽中にセットし,反応溶液に酸素を吹き込みながら 5 分間攪拌した。その後,酸素を通気しながら 2 kW キセノンランプで光照射(東芝ガラスフィルター(L-39),  $\lambda > 360$  nm)した。反応の進行状況を薄層クロマトグラフィー(チェック用 TLC,メルク,シリカゲル 60F254) で追跡した結果, 15 分間の光照射でシクロプロパン **28** のスポットは完全に消失した。その後, 1,4-ジアザ ビシクロ[2.2.2]オクタン(DABCO:23 mg, 0.20 mmol,東京化成 KK,純度 98%)を加えて(ピリリウム塩が光 反応で一部だけ分解して生成する HBF4を中和するため),反応溶液を 50 mL のナス型フラスコに移し,溶媒 を留去して粗生成物を得た。ジクロロメタン: ヘキサン = 1 : 3 を展開溶媒に用いて, 20 cm x 20 cm の シリカゲル薄層クロマトグラフィー(メルク 60GF254 のシリカゲルを使用して作成) 4 枚で粗生成物を分離 精製したところ, 1,2-ジオキソラン **24**(Rf = 0.40, 収率 56%)を得た。以下に 1,2-ジオキソラン **24** の物理 データを示した。

<24 の物理データ: C<sub>18</sub>H<sub>16</sub>O<sub>3</sub>[M.W.280.3178], colorless prisms, m.p.: 108-109°C>

1H-NMR (270 MHz, CDCl<sub>3</sub>)  $\delta_{ppm}$ : 1.66 (s, 3H, Me), 2.53 (s, 3H, COMe), 2.85 (d, 1H, J = 13.1 Hz), 3.84 (d, 1H, J = 13.1 Hz), 7.24-7.43 (m, 5H), 7.55-7.62 (m, 2H), 7.65-7.72 (m, 1H).

 $13C-NMR (67.5 \text{ MHz}, CDCl_3) \delta_{ppm}: 19.36 (q, 1C), 23.84 (q, 1C), 51.36 (t, 1C), 92.09 (s, 1C), 92.30 (s, 1C), 119.88 (d, 1C), 119.94 (d, 1C), 123.97 (d, 1C), 124.78 (d, 1C), 128.16 (d, 1C), 128.32 (d, 1C), 129.26 (d, 1C), 130.06 (d, 1C), 139.23 (d, 1C), 129.26 (d, 1C), 130.06 (d, 1C), 139.23 (d, 1C), 129.26 (d, 1C), 120.26 (d, 1C), 120.23 (d, 1C), 120.23 (d, 1C), 120.26 (d, 1C), 120.24 (d, 1C), 120.24 (d, 1C), 120.24 (d, 1C), 120.24 (d, 1C), 120.26 (d, 1C), 120.26 (d, 1C), 120.24 (d$ 

(s, 1C), 140.80 (s, 1C), 141.04 (s, 1C), 147.86 (s, 1C), 212.14 (s, 1C). IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 3070, 2990, 2850, 1722, 1608, 1582, 1478.

# 4. おわりに

これまでの研究結果から、環状過酸化物が抗マラリア活性を持つためには、ヘム(Fe(II))による 0-0 結 合の一電子還元的な開裂によって最終的に炭素ラジカル種が発生することが必須であることが明らかになっ た。発生する炭素ラジカル種については分子内に残る場合や分子から遊離(シクロアルキルラジカル,アセ チルラジカルなど)していく場合など種々のタイプのものがあるが、ほとんどのものに抗マラリア活性や細 胞毒性があると考えられる。環状過酸化物とヘム(Fe(II))との反応を予想して、狙いとする適切なアルキ ルラジカル種の発生と分子設計を計画することが高い抗マラリア活性の発現に不可欠である。

## 5 参考文献

[1] (a) M. Kamata, Y. Kato, E. Hasegawa, *Tetrahedron Lett.*, *32*, 4347-4350, **1991**. (b) M. Kamata, Y. Murakami, Y. Tamagawa, M. Kato, *Tetrahedron*, *50*, 12821, **1994**. (c) M. Kamata, M. Sato, E. Hasegawa, *Tetrahedron Lett.*, *33*, 5085-5088, **1992**. (d) M. Kamata, J. Kaneko, J. Hagiwara, R. Akaba, *Tetrahedron Lett.*, *45*, 7423-7428, **2004**. (e) M. Kamata, S. Nagai, M. Kato, E. Hasegawa, *Tetrahedron Lett.*, *37*, 7779-7782, **1996**.

[2] (a) M. Kamata, T. Kudoh, J. Kaneko, H.-S. Kim, Y. Wataya, *Tetrahedron Lett.*, 43, 617-620, 2002. (b) M. Kamata, M. Ohta, K. Komatsu, H.-S. Kim, Y. Wataya, *Tetrahedron Lett.*, 43, 2063-2067, 2002. (c) C. Jin, K. Kaewintajuk, J. Jiang, W. Jeong, M. Kamata, H.- S. Kim, Y. Wataya, H. Park, *Experimental Parasitology*, 121, 132-136, 2009. (d) M. Kamata, J. Hagiwara, T. Hokari, C. Suzuki, R. Fujino, S. Kobayashi, H.-S. Kim, Y. Wataya, *Research on Chemical Intermediate*, 39, 127-137, 2013.

[3] (a) M. Kamata, H. Watanabe, Y. Kitawaki, K. Sakurai, K. Yumita, J. Hayakawa, H.-S. Kim, *Bulletin of the Faculty of Education*, *Vol.14*, *No.1*, *Natural Sciences*, PP. 1-19, **2021**. (b) M. Kamata, T. Tanaka, K. Kanri, N. Namai, J. Hayakawa, H.-S. Kim, *Bulletin of the Faculty of Education*, *Vol.14*, *No.1*, *Natural Sciences*, PP. 21-35, **2021**.